

世界基準のコースでゴルフの本質を問いかけたカレドニアンGCでのダイヤモンドカップ

コースは、人を浮き彫りにするというが、結果はまさしくその言葉を証明する形となった。優勝は片岡大育(28)その勝利には合理的な理由がある。

片岡は2007年のプロ転向以来海外志向が強く、それも一気に米ツアーというのではなく、アジアや欧州ツアーを視野に入っていた。積極的にアジアや欧州のツアーを転戦。2011年にはアジアツアーのシード権を獲得している。日本人プロには珍しいグローバル感覚を身につけている選手である。

この片岡のコーチであり、マネージャーを兼ねているのが青山充氏(45歳)彼は23歳で渡米し、本場アメリカで、スイング



リンクスのようにマウンドが連なり、グリーンは横長の16番(343ヤード、パー4)

帰国後日本でそれを実践するコースとして青山コーチが白羽の矢を立てたのがカレドニアンGCである。

そして片岡はこの青山コーチと共に、アメリカ・オランダで修業を積んでいる。レベルの高い米国のコースでラウンドを重ねた結果、たどり着いた結論は「ゴルフはグリーンから逆算するゲーム」だった。

ゴルフはグリーンから逆算のゲームでカレドニアンと一体になった片岡大育の知略に溢れた優勝



池とバンカー、うねるグリーンが、スリル満点の6番(560ヤード、パー5)

プロ入り以来毎年ここで合宿地を選んだ。理由は明確だった。「カレドニアンは欧米の一流コースと同じで、プレーに大切な様々なことを訴えかけて来る。それに必要な技術も引き出してくれる。何よりグリーンから逆算するレイアウトだから、コースマネジメントを養うには最適。すべてのクラブを必要とし、ピンポジションで戦略が目まぐるしく変わる。片岡が賢いプレーヤーになったのは、ひとえにカレドニアンのお陰です」



ビーチバンカーが美しい18番(545ヤード、パー5)で選手のプレーを見守るギャラリー

最高難度のピン位置にもかかわらず、50センチにつけるスリーパットで、高山、サクサンシを一気に突き放した。この17番はいわゆるレダ設計(ティインンググラウンドに対し、グリーンは右手前から奥にかけて約45度に設置し、極端に幅が狭く、また急激な段差やうねりがある。グリーンに沿って手前にバンカーと谷、右はグラスバンカー)で、欧米の難度の高いコースによく見られる設計だ。

最難関の15番を徹底したマネジメントで攻略した片岡大育

カレドニアンGCには同コースを象徴する標語がある。「TAMU ARTS QUAMARTS」がそれで、これは「古代ローマ軍が掲げたラテン語の「力と同様に技も」の意味。

ここに飾られていた標語を見て、「これこそ、これから造るコースにふさわしい言葉」と天啓に打たれ、同コースの支配人に頼み込んで、許可を得たといういきさつがある。

またこの連続バーディの引き金となった15番(498ヤード、パー4)通常はパー5として営業)はフェアウェイ左サイドのほぼ半分からグリーン手前と右サイドにクリークが流れるオー



大会時は右の池をカットして1オン可能にした13番(407ヤード、パー4)

この言葉には、「ゴルフは自然との闘い。攻略するには、力だけでなく、頭脳、知性、精神力など総合力を必要とする質の高いゲーム」という箴言だ。

片岡は4日間を通してこの言葉に忠実なゲーム展開を見せた。特に圧巻だったのは、首位の高山忠洋、サクサンシン(タイ)に1打差の3位でスタートした最終日。冷静沈着なプレーでじつと機を伺い、グリーン手前左半分を小高いマウンド群が覆うリンクス風の16番(343ヤード、パー4)でフェアウェイからの第2打を3メートルに付けてのバーディをキープ。最終日は、残り約240ヤードを5番ウッドで手前



グリーンから逆算の賢いゲームで優勝した片岡大育と青山コーチ

ガスタの名物13番をイメージした美しくも、「ラフに入れたら万事休す。今回の一番難しいホール」(片岡)という厄介なホールである。片岡はここで連日ドライバーを使わず、確実にフェアウェイをキープ。最終日は、残り約240ヤードを5番ウッドで手前

「カレドニアンは、欧米風の段差やうねりがあり、そのグリーンをどう攻めるかがポイント。そのグリーンの形状を頭に入れ、外してはいけない場所も知っていたので、徹底的にマネジメントに徹しました。アメリカももちろんアジアやヨーロッパでこういうレベルのコースでプレーした経験が生きたと思います」

この結果に満足したのは優勝した片岡だけではない。同コースのメンバーも同様だった。「会員としての誇り」と胸を張った観戦者の島津隆司さん



ボランティアの会員は、レベルの高いカレドニアンGCに誇りを持った

創立直後からのメンバーで、最終日観戦に駆け付けた島津隆司さん(68)も胸を張る一人だった。「片岡プロの優勝はしてやっつかりの思いでした。このカレドニアンは世界の頂点に見られる基本設計を取り入れた素晴らしいコース。戦略性豊かで、歳を取った今でも、アプローチやパットが楽しめ、ゴルフの奥の深さを感じさせてくれます。また入会以来、コンディションの素晴らしさを提供してくれるスタッフには感謝の気持ちでいっぱいです。今回の片岡プロの優勝は私が目惚れで入会したことが間違いなかつたと証明してくれました。このコースのメンバーであることが誇りです」

島津さんは東京銀座で、ゴルフツアー専門のジェット&スポーツ社を30年に渡って経営するオーナー。4大メジャー開催コースを始め、世界中の名コースを網羅した人物でもある。その専門家がこれほど絶賛する。「世界基準のコースを造る」と決意した早川会長の思いは、プロだけでなく会員にも伝わっていたのだ。願わくばここでツアー最高峰の日本オープンを見てみたい(その噂もある)また世界のトップレベルに登りつめた松山英樹や世界のトッププレーヤーのプレーも見たい。関係者やファンの切なる思いが新たに芽生え始めている。